

泉州地域活性化計画

～イスラム圏の人々に着目して泉州への観光客数をUPさせよう～

桃山学院大学社会学部社会学科

10S1197 向井佐織 10S1235 岡原睦美

10S1281 野々瀬真理子 10S1301 山下真穂

〈チーム名 るーぎーず☺〉

目次

- ・テーマについて
- ・プレゼンテーション (スライド)
 - I. 泉州地域の現状
 - II. イスラム圏の人々をターゲットに
 - III. 東南アジア 5 カ国の査証緩和
 - IV. イスラム教について
 - V. プラン①, ②, ③
 - VI. 効果
- ・結論
- ・今後の課題と展望

テーマについて

私たちは巖ゼミで環境問題や環境教育など環境について様々な事を学んできた。そして、その中でも地域活性化という課題を私たちは卒業論文の題材として選択する。選択した理由は、丁度大学生を対象とした地域活性化プラン制作コンテストの話が舞い込んだのと、私たちの大学がある泉州地域の現状について興味が湧いたからだ。だが、いざ調査を開始してみると泉州地域は観光資源が大阪市内に比べて少なく観光客の集客率が悪い事が判明した。この課題を解決すべく私たちるーぎーずは立ち上がった！以下の資料は私たちが実際にコンテストで使用したものであり、実際のコンテスト同様に説明していこう。

泉州地域の現状



外国人観光客が少ない

- 泉州には関西国際空港があり、大阪/京都/奈良への移動の際にも泉州を通ることを活用すべき



特産品が活用されていない「泉州ブランド」

- 泉州の特産品(水ナス・泉州玉葱・泉州キャベツなど)
- 食材以外にも地酒・堺の刃物・和泉ぐし・など



外国人観光客のニーズがつかめていない

- 今後増加傾向にある東南アジアの人々をターゲットに
- 異文化交流を積極的に行う

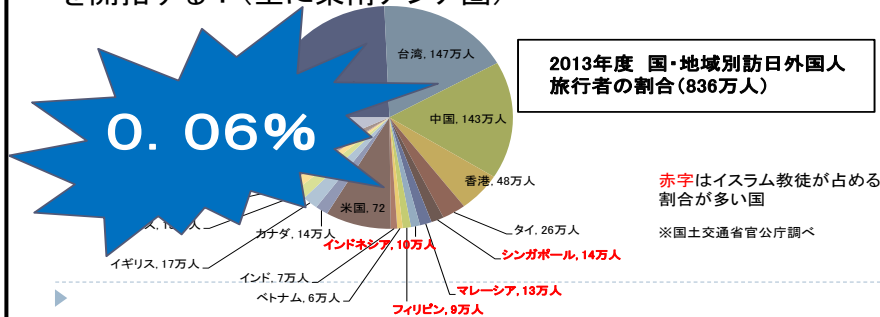
参考文献 泉州地域政策課題研究会 「泉州地域の地域プロモーションに関する調査研究」
財団法人堺都市政策研究所 ～泉州地域の観光交流の増加に向けて～

まず、泉州地域の現状だが、資料にあるように大きく分けて3つの課題が見えてくる。ではそれぞれの課題の解決案を一つずつ説明していくとしよう。






1つ目の外国人観光客が少ないという点であるが、泉州地域には関西国際空港という世界と大阪を結ぶ大きな玄関があるにも関わらず、観光客のほとんどは大阪市内、奈良、京都を訪れ、泉州地域には立ち寄らないということである。その中でも私たちが最も注目したのはイスラム教徒の多い東南アジア圏の観光客だ。訪日する東南アジア圏の観光客は訪日外国人観光客のうちのわずか0.06%であり、これから多くの観光客を泉州地域に招き入れる事が出来る大きな可能性がある。

イスラム圏の人々をターゲットに！

世界の4分の1弱をイスラム教徒が占めている。
しかし、実際に訪日イスラム教徒の割合は**わずか**である。
このイスラム圏の人々を日本に呼び込むことは、**経済効果**や**雇用**を生み出す！
まだ、マイナーなイスラム教徒にターゲットを絞り、**新たな市場**を開拓する！（主に東南アジア圏）



～東南アジア5カ国の査証緩和～






		→	ビザを免除
タイ	マレーシア		
		→	数次ビザを発給
ベトナム	フィリピン		
		→	数次ビザの滞在期間延長 査証の発給要件を緩和
インドネシア			

7月1日より緩和

これにより東南アジアの観光客が増加
受け入れ態勢を強化し、イスラム圏の人々が安心して過ごすことのできる
環境を作らなければならない！

さらに、2013年7月1日より東南アジア5カ国の査証緩和が行われ、緩和前よりかなり訪日しやすくなった。これにより東南アジアの観光客が増加し、この東南アジア圏の観光客を呼び込むことは地域活性化にも繋がるのである。ではここで簡単な問題を出したい。東南アジア圏の人口はどれくらいか君たちは知っているだろうか？

～東南アジア5カ国の査証緩和～

		→	ビザを免除
タイ	マレーシア		
		→	数次ビザを発給
ベトナム	フィリピン		
		→	数次ビザの滞在期間延長 査証の発給要件を緩和
インドネシア			

7月1日より緩和

2億人！

これにより東南アジアの観光客が増加
受け入れ態勢を強化し、イスラム圏の人々が安心して過ごすことのできる
環境を作らなければならない！

正解は約2億人である。東南アジア圏に2億人もの人々があり、この多くはイスラム教徒である。イスラム教徒の観光客の人々を受け入れる体制があまり整っていない日本において、イスラム教徒の人々が訪れやすい環境を泉州地域に作ることは必然的に多くのイスラム教徒の観光客の人々が泉州地域に集まるということになる。

イスラム教徒の人々を呼び込む前にイスラム教について我々日本人はあまりにも無知である。だが、知らないことには話にならないため軽くイスラム教について簡単に説明しよう。イスラム教徒は毎日礼拝することが必要で、食に関して

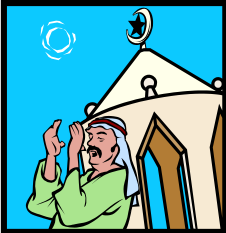



も食べることのできるものとできないものがある。この2点はイスラム教徒の人々を招く際に大きな壁となる。だが、逆にこの2点についての壁を壊す事が出来たなら、イスラム教徒の人々を招き入れやすくなるのだ。そこで我々は3つのプランを考えた。

イスラム教について

- ▶ イスラム教は1日に5回の礼拝がある(基本的には礼拝所で行う)
- ▶ 礼拝前は口、手、鼻、顔、腕、髪、足を水で清める(ウドゥー)
- ▶ 礼拝所は清潔でなければならない

広さ: 2畳ほど
必要: 礼拝時に敷くマット

ウドゥーのための洗面台

プラン1つ目は、泉州地域の各主要駅に礼拝所を設置するというものである。また、礼拝の際には小物を使用するので、礼拝所で小物の無料貸し出しサービスを行う。そういった配慮をすることはイスラム教徒の人々が気持ちよく観光するために必要なことである。現状では日本はイスラム教に対する知識が浅いので礼拝の習慣があるイスラム教観光客に

とってあまりいい環境とは言えないが、これらを意識すれば泉州地域をイスラム教徒にとって理解ある観光地だとアピールすることができる。



プラン①

- ▶ 各所に礼拝所を設ける
(例)泉州地域の各主要駅に設置など。
- ◆ イスラム教徒は1日に5回礼拝を行うため、お祈りのできるスペースを確保する必要がある
- ◆ 方角がわかるように、コンパスも準備

→日本ではお祈りの習慣がなく、イスラム教を詳しく知らない人が多いため、東南アジアからの観光客にとって良い環境だとは言えない

↓

宗教的な面からも過ごしやすい環境にすることは、**異文化を知り、交流を深めることに繋がる!**

プラン2つ目は、イスラム教徒の人々が食べることができるハラルフードを泉州の食材を使って新たな名物料理として提供する。これは始めに提起した2つ目の課題解決に繋がる。また、和食や精進料理はほとんど肉を使わないのでハラルフードとは相

性がよく、作る時に酒に気をつけるだけでイスラム教徒の人々に提供できる料理を作ることができる。ちなみに、上記の3枚の写真は我々が実際に酒や肉類を一切使用せず調理したハラルフードである。味もなかなかのものであった。

プラン②

▶ 泉州の食材を使ったハラルフードを提供
「日本食」を味わってもらおう

※ハラルフード・・・イスラム教の律法にのっとった食べ物
豚肉・アルコールは×



【地エビと玉ねぎの茶碗蒸し】【地エビカツのナンサンド】【地エビ玉ねぎナンサンド】






そのハラルフードは、泉州地域に存在する多くの料理店を利用し提供する。また、ハラルフード提供料理店にはイスラム教徒の観光客の人々が一目でわかるように提供マークを表示する。これは新しくハラルフード提供店を造るよりも低コストで実現


可能だ。しかしこれには、地域の人々の協力が必要不可欠である。地域の人々があたたかい気持ちでイスラム教徒の人々を迎え入れ、互いに交流し合えば多くの情報交換ができ、今後の課題が見えより良いサービスの提供に繋がるのだ。さらに、イスラム教徒の観光客からすると地域の人々と交流することで、安心・安全を得ることが出来るのと同時に、普段の観光より地域に深く関わる分ディープな観光が楽しめる。泉州地域の人々は親しみやすく、優しいのでこのプラン実行にもってこいの優秀な人材と言えよう。

ハラルフード提供にあたって


▶ 既存の料理店でハラルフードの提供をする
イスラム教徒の観光客が希望すれば食材、調理過程、を確認できるようにする。




安心



安全



▶ 料理店をイスラム教徒の人々と日本人との交流の場とする



親しみやすく、優しい
泉州地域の人々との
交流を目玉商品に！

プラン3つ目は、東南アジア圏の観光客が泉州地域により一層訪れやすくするために東南アジアの人々向けの泉州地域のガイドブックを提供するといものである。これは、観光客が多い主要観光都市に設置し、泉州地域の取り組みを多くの人々に知ってもらえる効率的な方法

である。そのガイドブック中に礼拝所、ハラルフード提供店、観光地を記載した地図を入れることも忘れてはならない。そして、私たちが調査を行った岸和田市をモデル都市としてこれらのプランを実行し、岸和田市の景気・活気回復に効果があるようであれば泉州地域全域に展開していこうと我々は考えている。

3つ目の課題であるニーズについては、対象をイスラム教徒の人々にしたことで、1~3のプランを成功させることで解決できる。


これらのプランを成功させると上記の効果が期待できる。その中でも我々が注目したのは異文化理解・交流という点である。この点がうまくゆけば、東南アジアの人々も安心して泉州地域に訪れることができ、交流を目的として何度も足を運ぶようになるだろう。そして、必然的にさらなる観光客の増加、商店街の活性化、特産物の売上増加へと繋がっていくのである。

プラン③

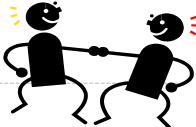
- ▶ 既存のガイドブックに礼拝所・ハラルフード提供店の情報を記載する
- ▶ 言語も東南アジアの人々に配慮した記載の仕方にする

➡ モデルとなる地域で実施して、除々に泉州全域に展開
まず、私たちが現地調査を行った岸和田市をモデル市とする

ガイドブックは、関西国際空港や京都・大阪などの主要観光都市の案内所に設置する



☆効果☆



- 商店街の活性化！
- 特産品の売上アップ！
- 異文化理解・交流！
- さらなる観光客の増加！

結論

巖教授の下、我々4人は2年間多くのことを学んできた。環境破壊、絶滅危惧動物、環境教育、自然の偉大さなど例を挙げるときりがない。これらすべてに共通しているのはヒトである。環境破壊はヒトが多くを求めがゆえに起こっている。絶滅危惧動物はヒトが豊かになる代償である。環境教育は人間がヒトに教えていく。自然の偉大さをヒトは自然がないと生きていけないから感じるのである。自然の偉大さに敬意を示しながらヒトは自然を破壊する。なんと矛盾したことか。しかし、ヒトは求めずにはいられないのだ。他人よりも優れた環境を手に入れたという欲求にただ突き動かされている。しかし、これは致し方ないことだと我々は考える。人間は優れたものを求め続けないと生きていけない、世界中がそうなっているのだ。そして、環境が破壊されることはヒトがこの地球に誕生した時から決まっていたのではないだろうか。我々は偉大な自然を守っていきたい、しかし、生活の質を落とすたくはないのだ。環境が破壊され生物が絶滅していく様を我々人間は見届けていかなければならない。だがしかし、環境破壊や生物の絶滅のスピードを速める必要はない。その大きな原因として戦争が挙げられる。戦争によって多くの自然や生物が失われていった。ではなぜ戦争が起こってしまうのだろうか。民族、宗教、土地、資源すべてヒトとヒトとの小競り合いが原因ではないか。これを少しでも改善するためには異なる文化を持つ相手を知ることは重要な事ではないだろうか。我々が考えてきた泉州地域での異文化交流も異なる文化の相手を知ることが出来る。規模は小さいが少しでも多くのヒトが文化の違いがあろうとも交流していく上ではなんの障害でもないということを感じてほしいのである。あわよくばそれが日本中に広まり、世界に広まって戦争が少しでも縮小し、環境破壊のスピードが遅くなることを我々は望んでいる。